

# 大分の伝統文化・神楽

神事の一つとして始まった神楽は神職によって舞い継がれてきましたが、明治時代になると、神職による神楽が禁止されました。そこで、伝統を守るために立ち上がったのが、それぞれの神社の氏子達でした。こうして市内に30余の神楽社が誕生し、このうち25社の神楽社が今でも活動を続けています。



## 大野系岩戸神楽

市内のほとんどの神楽は、豊後大野市から伝わったものです。

日本神話を題材としているため、岩戸神楽といわれています。イザナギ・イザナミによる日本誕生を記した「国生み」、アマテラスオオミカミを天の岩戸から誘い出す「岩戸開き」、スサノオのミコトがヤマタノオロチを退治する「大蛇退治」、高千穂に高天原の神が降り立つ「天孫降臨」の4つの神話が表現されています。

### ①採り物神楽



採り物神楽は、古来の形を色濃く残しており、煌びやかな衣装や神楽面を使用せず、巫女鈴や御幣を手に粛々と舞う神楽です。市内では唯一、野津原入蔵の御幣神楽社が継承しています。

### ②浅草流神楽



豊後大野市の上津八幡社・浅草八幡社を発祥とする神楽です。大分市や由布市など県内にもっとも広く伝承され、現在は野津原地域を中心に7社の神楽社が活動しています。

### ③庄内系浅草流神楽



由布市庄内地区に伝わった浅草流に出雲神楽の特徴を取り入れたものです。演目「大蛇退治」では、いち早く蛇腹形の大蛇を取り入れたり、他にも、太鼓の撥を使ったパフォーマンスなど、進化を続けている神楽です。

### ④深山流神楽



深山流は、豊後大野市朝地町にある深山八幡社を発祥とする神楽です。この流派の特徴は、36番という最も多い演目と伝承当時の形を変えずに継承していることです。